

解説

「夢の時間割を作ろう」5年生の外国語活動を紹介합니다。本実践は、11月に仙台市小学校教育研究会外国語活動公開授業で行ったものです。授業では、時間割を尋ね合う中で、教科や尋ねる表現に慣れ親しませることをねらいます。しかし、たくさんの教科名に加え、曜日の言い方まで扱うため、難しさを感じる児童も多い単元です。

慣れ親しませるにはたくさん聞かせる

このようなたくさんの単語表現を扱う時に私は次のポイントを大切にしています。

- 1) 最初は、その単語を言わせない。
- 2) イラストや具体物を提示する。
- 3) 児童同士が関わり合う活動を入れる。

たくさん単語があるので言わせて覚えさせようという気持ちも働きますが、そこをぐっとこらえて、「単語は聞かせるが児童は言わない」活動を考えます。例えば、教科書を封筒に入れて隠し、少しずつ教科書の表紙を見せていきます。「Is this math?」と何度も尋ねながら徐々に見せていきます。児童に「Yes!」か「No!」で答えさせていきます。最初は自信がないのですが、表紙のイラストが分かってくると何度も「Yes!」「No!」を言うようになります。算数の教科書を注意深く見て、この時に「math」を何度も聞いています。「イラストや具体物を提示」することで、音声と教科書のイメージが結び付き、覚えやすくなっています。

児童同士が関わる活動で楽しさアップ

さらに活動を楽しくさせるポイントは、子供同士の活動です。「No!No!Yes!」では、ペアやグループで「せーの!」で動作付きの「Yes!」「No!」を言わせるだけで活動が楽しくなります。

また、教科の単語に慣れてきたら、キーワードゲームで聞かせる活動をしています。私はグループで楽しめるイソギンチャクキャッチを行っています。4, 5人輪になり、大仏様のように左手は下の方に右手は立てて構え、右手の人差し指を一本上に向けます。その右手の人差し指を隣の人左手の手の平につけて立て、隣の人の人差し指は自分の左手に立てられていて、それがみんなでつながった輪になっています。この状態でキーワードゲームを行います。左手の手の平はイ

ソギンチャクのように指を閉じ、イソギンチャクの指に触られるとしびれます。イソギンチャクは岩に張り付いているので上にはいけません。指が閉じる前に逃げます。このように怪我やトラブルを回避し安全面に配慮するために、状況設定を行っておきます。指を閉じることと逃げることを同時に行うところがおもしろいです。グループで児童が関わり合うアレンジをすることでとても楽しく活動ができます。

尋ねる必然性のある会話の場面を作る

「What do you study on Monday?」「I study math, music, PE.」という表現が紹介されています。夢の時間割を考えて、曜日ごとに時間割を紹介してもいいのですが、必然性があまりありません。「なぜ、曜日を尋ねる必要があるのか?」ここに必然性を持たせるために、「スペシャル教科がある日を当てる」という活動にしています。何曜日にあるのかを予想して尋ねることで、答える方も伝えたくなり、必然性のある会話の場面を作ることができています。その表現で尋ねなくなる、答えなくなる場面作りはとても大切な視点となっています。

(仙台市立大野田小学校 栄利滋人)